

記者発表資料

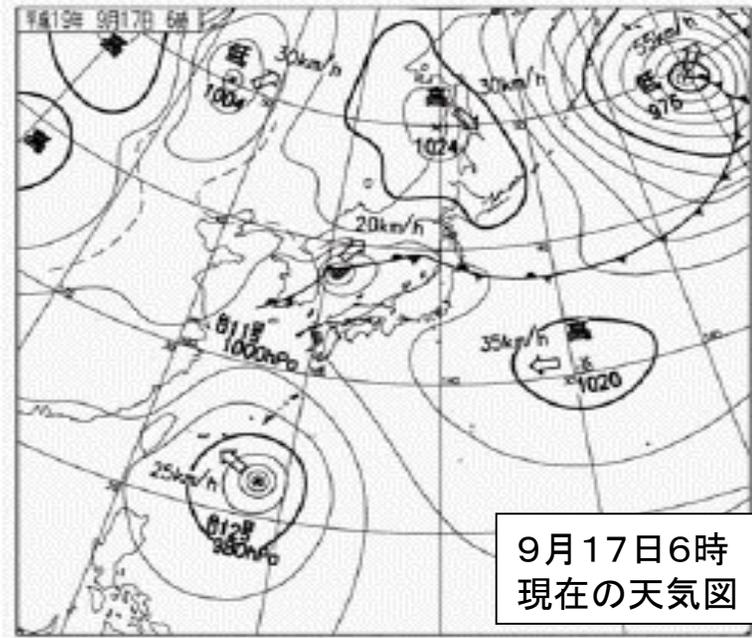
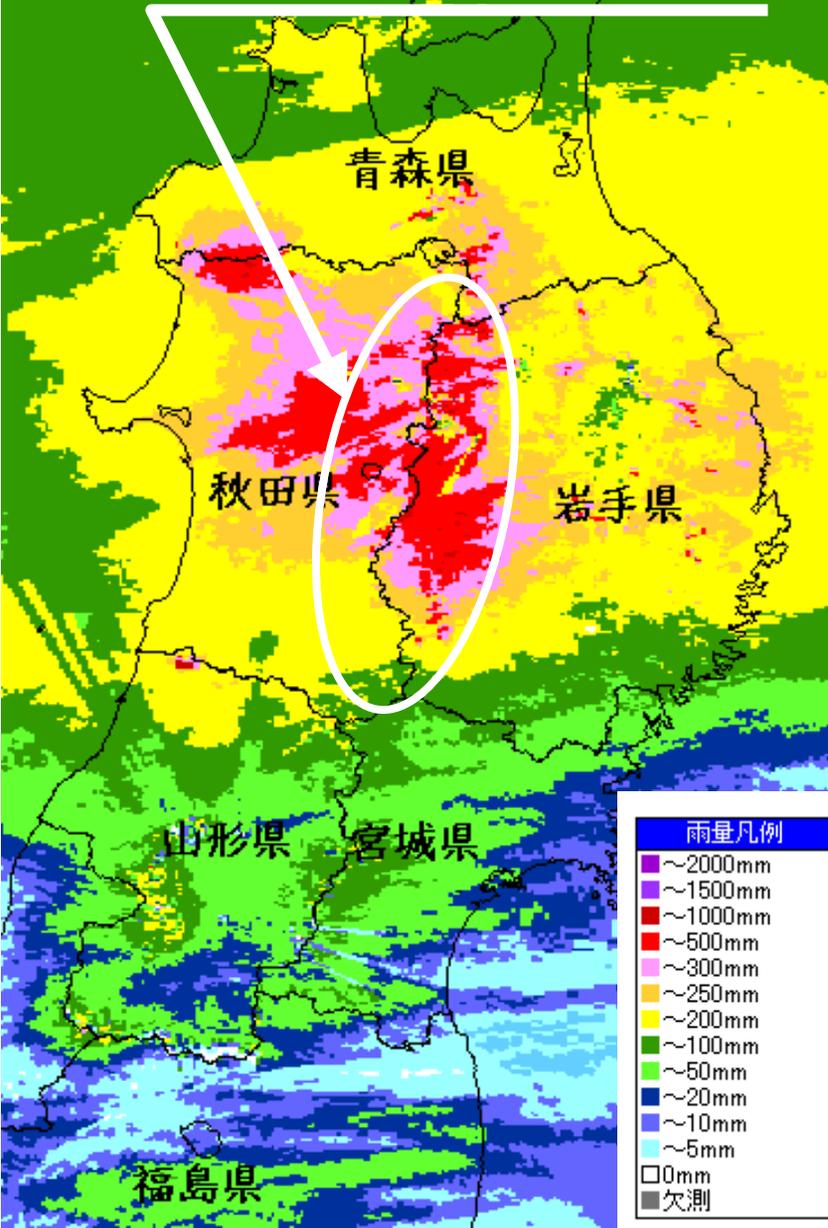
平成19年9月17日 前線性豪雨と 森吉山ダムの効果（速報）

平成19年9月20日

東北地方整備局

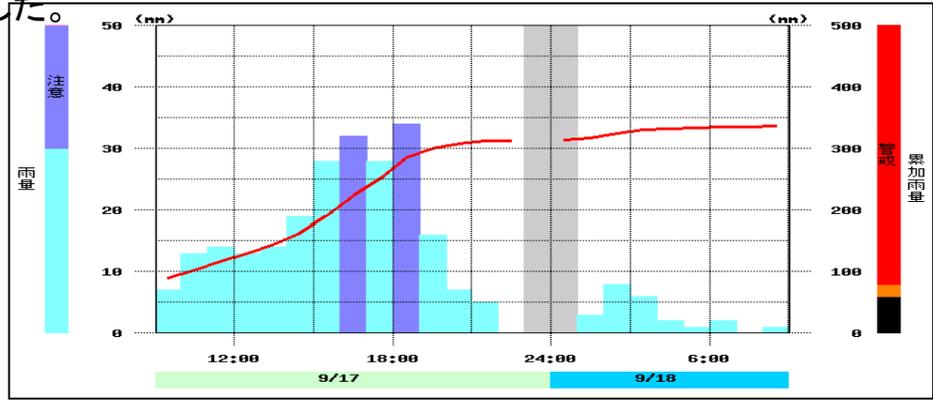
前線(9月17日~18日)に伴う降雨状況

奥羽山系に集中した降雨

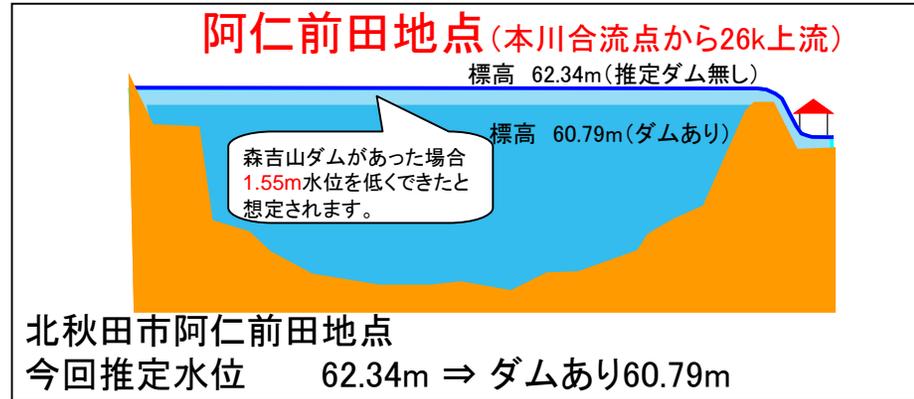
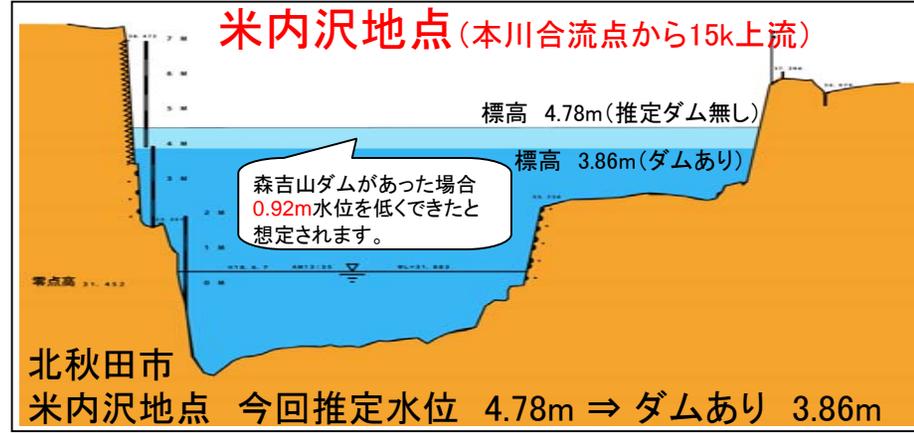
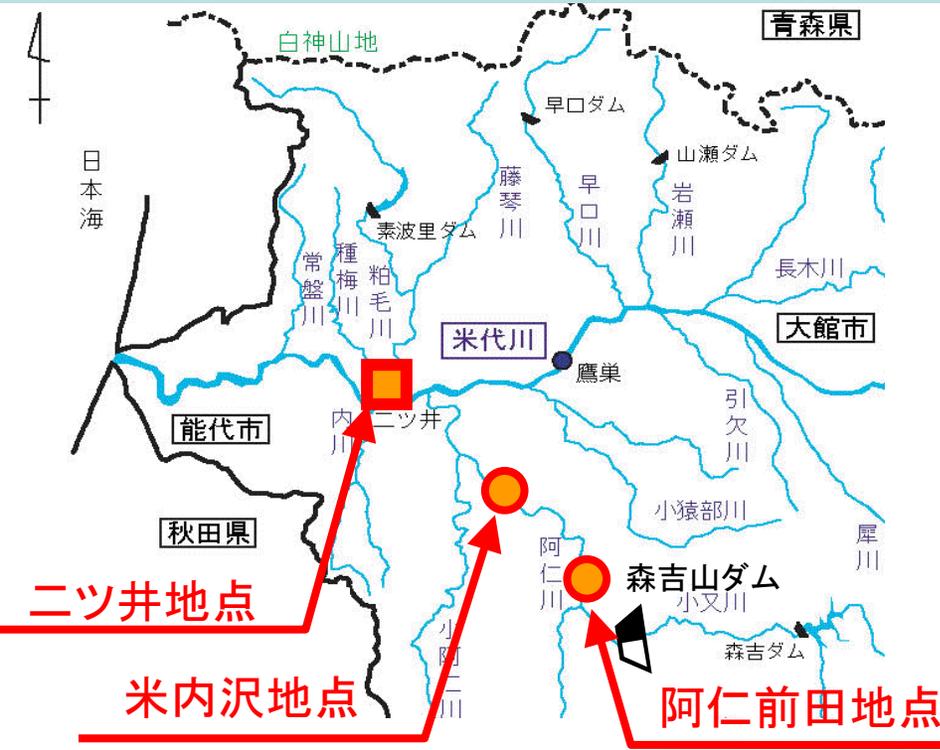


9月17日6時
現在の天気図

秋田県と岩手県の県境の奥羽山系を中心に、停滞している前線が活発化して、17日早朝より秋田県の米代川流域及び岩手県の北上川流域において300mmを超える大雨となりました。



森吉山ダムの効果 ~もしも森吉山ダムが完成していたら~



昭和47年7月洪水では家屋被害10,951戸に及ぶ甚大な被害がありました。本出水では、その洪水に次ぐ戦後2番目に大きな洪水であり、阿仁川沿川の浸水等の家屋被害だけでも350世帯を超える被害が生じており、森吉山ダムが整備されていれば被害を軽減出来たと想定されます。

【水位低減効果】

- ニツ井地点 : 約0.5m低下
- 米内沢地点 : 約0.9m低下
- 阿仁前田地点 : 約1.6m低下

※水位低減効果は、速報値により試算したものであり、今後精査により変更される可能性があります。

※浸水被害世帯は北秋田市HPによる。

※米内沢地点及び阿仁前田地点は、水位計の故障等により、ダム無し水位は推定値です。

森吉山ダムの効果 ~もしも森吉山ダムが完成していたら~

本洪水で森吉山ダム地点における最大流入量は、約780m³/sですが、森吉山ダムが整備されていれば放流量は約110m³/sまで低減でき、約670m³/sの洪水調節効果が想定されます。

これにより、阿仁川にとどまらず、本川合流後の能代市の洪水被害軽減が図れたと想定されます。

特に、阿仁川筋では4箇所[※]の破堤や家屋浸水被害が発生しました。もし、森吉山ダムが出来ていれば、これらの被害を大幅に軽減できたものと想定されます。

※破堤箇所については秋田県の資料による

